

万物の黎明

近代経済社会の特徴

現代の経済社会では、国家が成立し、議会、政府、裁判所がそれぞれ独立して機能しています。また、警察が国内の治安を守り、軍隊が外部の脅威に対処します。人々の基本的な人権や所有権などの制度的な権利も確立されています。

ホッブズとルソーの自然状態のモデル

このような現代の社会が成立する前の、人類の自然状態について、二つのモデルがあります。

ホッブズのモデル：

状況：人々は孤独で貧しく、辛く残忍な生活を送っていた。

特徴：「万人の万人に対する闘争」という状況で、人類は凶暴で争い好きな存在として描かれています。

ルソーのモデル：

状況：農業や冶金が始まる前、土地は共有されていました。

特徴：豊かな森で小さな集団が平等に暮らしており、人々は無邪気で自由な存在でした。

文明の進化とその影響

ホブズによれば、社会契約によって人々の本能が権力によって抑圧されるようになったといいます。一方、ルソーは、自由を犠牲にして文明が進化したと主張します。

グレーバーの新しい視点

グレーバーは、これらの伝統的な見方に対して疑問を投げかけています。彼は、先史時代には平等な経済社会が存在していたにもかかわらず、文明の発達が不平等を生み出したという一般的な歴史観に異議を唱えています。

移動と自由

また、過去には現在よりも自由に人々が移動していたことを指摘しています。先史時代や有史時代には大規模な人口移動が頻繁に起こり、地域を自由に選択して豊かさを追求することができたということです。

結論

『万物の黎明』は、自由と平等という基本的人権の視点から、壮大な人類史を再考するための重要な本です。グレーバーは、私たちが持っていた固定観念を打ち破り、人類の歴史を新しい視点で捉え直すことを提案しています。